|  |
| --- |
| 中小企業の動き（2021年７～９月期） |

「中小企業景況調査」（中小企業庁･独立行政法人中小企業基盤整備機構）によると、全国における2021年７～９月期の中小企業（全産業）の業況判断ＤＩ（前期比季節調整値）は－28.4で、前期より2.6ポイント減少し、２期ぶりに低下した（図１）。

業種別にみると、製造業は－17.5（前期より0.3ポイント減）となり、５期ぶりに低下した。一方、非製造業は－32.1（前期より3.3ポイント減）で、２期ぶりの低下となった。

非製造業を業種別にみると、すべての業種でＤＩは低下した（図２）。特に、卸売業、小売業の減少幅が大きかった。

経営上の問題点は、建設業を除くすべての業種において「需要の停滞」が１位であるが、その割合は減少した（図３）。

建設業は、４～６月期に１位になった「材料価格の上昇」の割合が、さらに増加し24.5％を占めた。製造業でも「原材料価格の上昇」、卸売業では「仕入単価の上昇」が上昇しており、原材料等の仕入価格の上昇を問題とする企業割合が、幅広い業種で高まっている。

2021年10～12月期の業況判断ＤＩ（全産業）は、－21.7で、今期より6.7ポイント改善する見通しとなっている。

図１　中小企業の業況判断ＤＩの推移



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第165回中小企業景況調査（2021年7-9月期）」

（注）業況判断ＤＩは、「好転」企業割合－「悪化」企業割合。前期比季節調整値。

図２　非製造業の業種別の業況判断ＤＩの動き



出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第165回中小企業景況調査（2021年7-9月期）」

図３　経営上の問題点（各業種３位まで）の動き

出所：独立行政法人中小企業基盤整備機構「第165回中小企業景況調査（2021年7-9月期）